Word 文書雛形

サンプル

雛形文雄

1.03-01 版

2015/11/19

目次

1. 概要 1
1.1 本書の構成 1
1.2 ロケールに関する注意 1
2. この雛形の使い方 2
2.1 タイトルなどのプロパティ設定（表紙） 2
2.2 名前を付けて保存 2
2.2.1 文書ファイルの上書き保存 2
2.2.2 文書ファイルをテンプレート化して保存 2
2.3 見出しレベル選択 3
2.4 他の段落設定 3
2.5 目次設定 4
2.6 各種編集妨害機能について 4
3. 色々な記述/参照の挿入法 5
3.1 改ページ 5
3.2 図版の挿入、配置法（右詰、左詰） 5
3.2.1 挿入 5
3.2.2 配置（右詰、左詰） 5
3.2.3 枠を付ける 5
3.3 相互参照 6
3.4 脚注 6
3.5 インデント 6
3.6 検索・置換 7
3.7 表 7
3.8 図形 7
更新履歴： 8

Word 文書雛形

サンプル

雛形文雄

1.03-01 版　2015/11/19

---

1. 概要

MS-Word の長文用文書雛形です。仕様書やマニュアルを主に想定しています。

この雛形の大きな目的はヘッダー、フッターに文書内容（項番、見出しなど）を自動反映させることです。等幅文字の段落なども用意されます。

雛形として使う他、word の設定法/操作法の説明となっています。

対象としている word は 2010 です。word はバージョンが異なると設定法やその他全く異なりますが、雛形としては利用できます。

word は画面構造が複雑で、やりたい事とリボンとの関連が分かりづらいので、説明にはリボンの選択から画面を載せました。色々な場面で繰り返しでる画面もできるだけ省略しないようにしています。

1.1　本書の構成

本書は

- この雛形の使い方
- 色々な記述、参照の挿入

で構成されています。

1.2　ロケールに関する注意

Word は文書を作成したロケールと異なるロケールで開こうとした場合、スタイル名などを勝手に変えられてしまい、参照ができなくなることがあります。

その場合、3 ページ「2.3 見出しレベル選択」の手順で「スタイル」一覧を出し、参照できなくなっている（と推測される）スタイルを右クリックし、ポップアップメニューの「変更(M)」相当を選択します。「スタイルの変更」相当の窓が出ますので、先頭項目「名前(N)」相当に参照できなくなっている元の名前を設定します。OK を押すと、「スタイル」リストには現ロケールでの名前の後ろに元の名前が追加され、参照可能となります。

2. この雛形の使い方

雛形はテンプレートファイル(.dotx)の形で提供されています。

ファイルをクリックすることによりテンプレートが反映された仮の文書(.docx)の形でオープンできます。

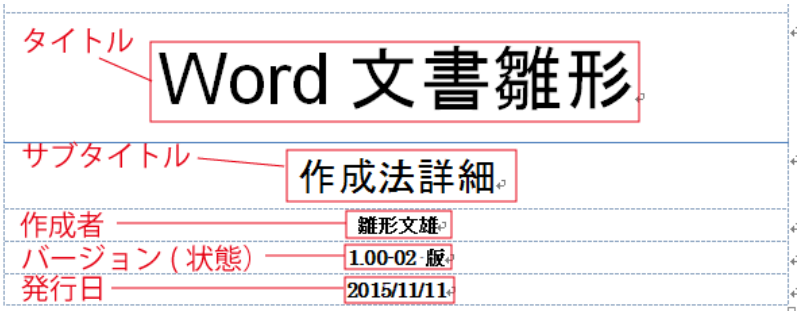
オープンされた文書に対する変更はテンプレートファイルに対し影響を与えません。

版番号は V.vv-rr(1.03-01 など)となっています。スタイル雛形に変更がある場合は V.vv が変わります。rr の違いは記述の違いでありスタイル雛形としては違いはありません。

2.1 タイトルなどのプロパティ設定（表紙）

次の文書プロパティを表紙で設定します。

表紙で設定されたこれらの情報はフッターなどに反映されます。



バージョン番号が「状態」という特殊なプロパティとなっているのは、フッターなどに自動反映させる[1]ためです。

2.2 名前を付けて保存

プロパティ設定後、「ファイル」－「名前を付けて保存」で文書を必要なファイル名で保存します[2]。

以降はこのファイルで作業を行うことになります。

2.2.1 文書ファイルの上書き保存

文書ファイル(.docx)は「上書き保存」で上書きされます。

2.2.2 文書ファイルをテンプレート化して保存

「名前を付けて保存」－「ファイルの種類」で「Word テンプレート(*.dotx)」を選べばテンプレートとして保存されます。

文書ファイル(.docx)を編集途中のファイル、テンプレートファイルを版管理されたファイルとして扱うことも可能です。

---

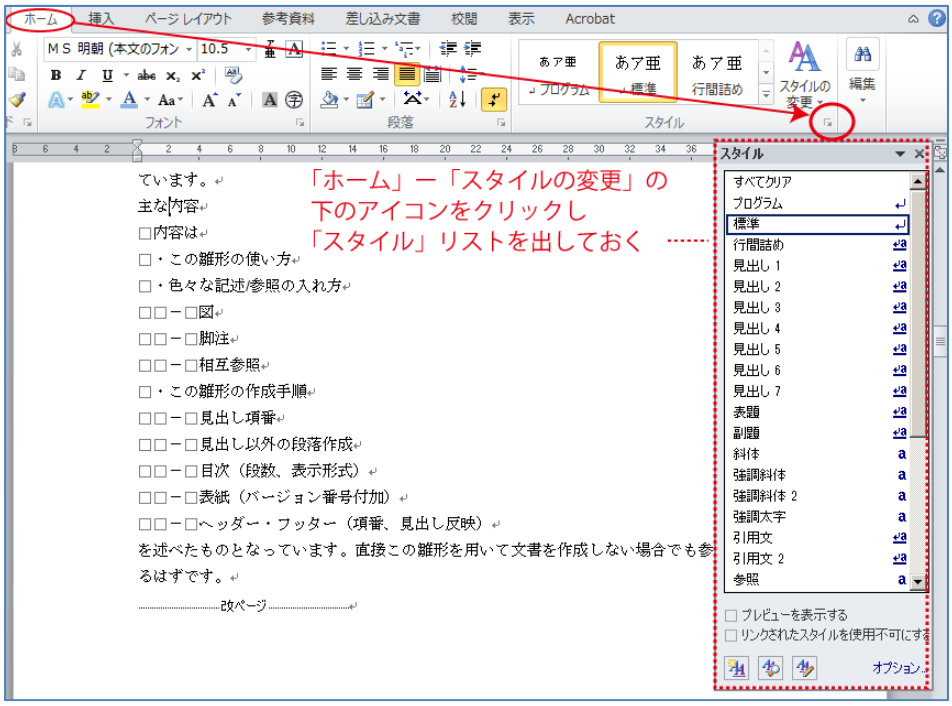
[1] 利用者定義のプロパティーはフッターなどへの自動反映させることができません

[2] 「上書き保存」でもテンプレートファイル(.dotx)に上書きされず、文書ファイル(.docx)となります。

2.3　見出しレベル選択

項番付きの見出し行を設定できます。見出し行は目次に反映されます。

「ホーム」-「スタイルの変更」の下のアイコンをクリックし「スタイル」リストを出しておきます。



見出しにしたい行にカーソルを置き、「スタイル」リストの"見出し 1"～"見出し 5"をクリックすると、その行が見出しになります。

2.4　他の段落設定

段落「プログラム」が用意されています。

小さ目の等幅フォントで、インデント付き、行間が狭めとなっています。

この設定を行いたい行を選択し、前項で出している「スタイル」リストから"プログラム"を選択します。

```
// iii
// WWW (iと同じ幅)
public void main(String[] args){
    System.out.println("Hello world !");
    }
```

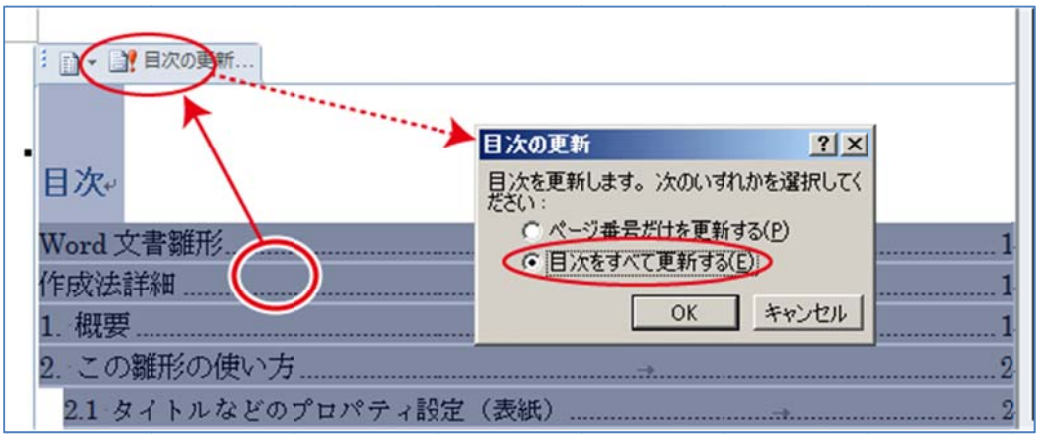
「プログラム」のインデントを 0 にした「ログ」も用意されています。

2.5　目次設定

見出しにした行は目次に反映されます。

目次ページで目次部をクリックすると、「目次の更新」タブが出てきます。これをクリックすると「目次の更新」ダイアログがでます。

"目次を全て更新する(E)"[3]を選んで[OK]を押します。



2.6　各種編集妨害機能について

「先頭文字を大文字にする」など各種編集妨害機能を抑止しています。もし必要なら復活させてください。

「ファイル」－「オプション」－「文章校正」－「オートコレクション（のオプション」で妨害/破壊設定を変更できます。

---

[3] 必ず"目次を全て更新する(E)"を選んでください。"ページ番号だけを更新する(P)"は間違いの元であるうえ、ドキュメントの破壊に気が付かないことがあります。

3. 色々な記述/参照の挿入法

極めて煩雑な作業が要求されますので注意が必要です。

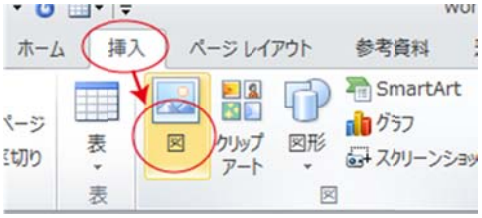
3.1　改ページ

ページを区切りたい場所にカーソルを置き「挿入」－「ページ区切り」で改ページできます。

3.2　図版の挿入、配置法（右詰、左詰）

3.2.1　挿入

図版（png などのイメージファイル）を挿入するには、挿入したいおおよその位置にカーソルを置き、「挿入」－「図」をクリックし、「図の挿入」ダイアログでファイルを選択します。



3.2.2　配置（右詰、左詰）

図版の配置を

・右置きにし左に文

・左置きにし右に文

・中央置きにし、左右は空き

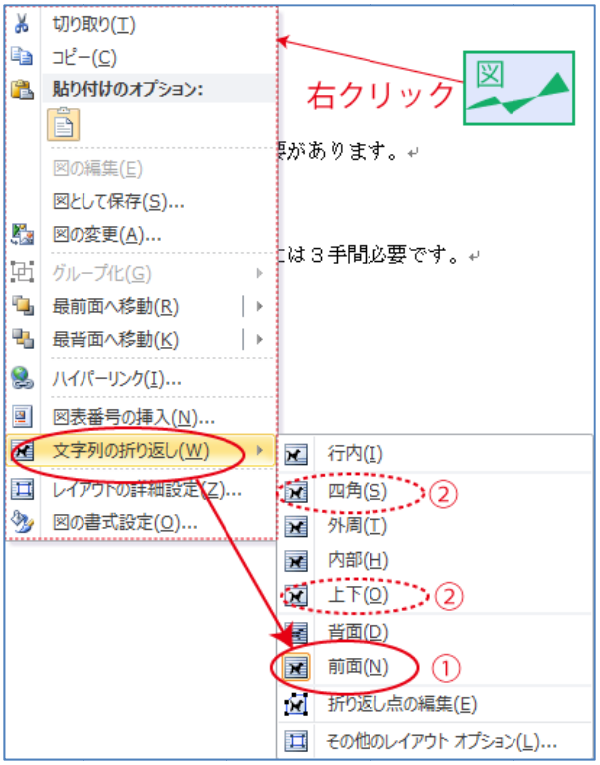
の形にするには、当該イメージを**右クリックしてポップアップメニュー**を出し、「文字列の折り返し」を２回実行する必要があります。

右詰：①「前面」、②「四角」

左詰：①「前面」、②「四角」

中央：①「前面」、②「上下」

を選んだ上で、図をドラッグして、望む位置に移動します。



3.2.3　枠を付ける

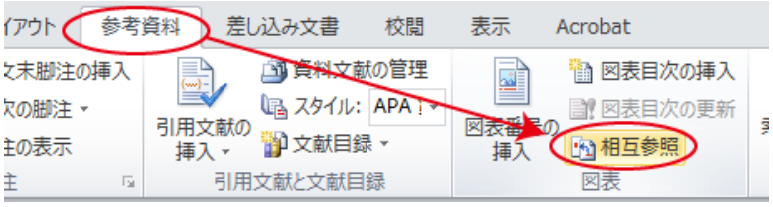
ポップアップメニューの図の書式設定の、「線の色」で枠の設定ができます。

3.3　相互参照

相互参照,例えば

（5 ページ「3.2 図版の挿入、配置法」参照）

などと入れるためには、「参考資料」-「相互参照」を選びます。



「相互参照」ダイアログで、

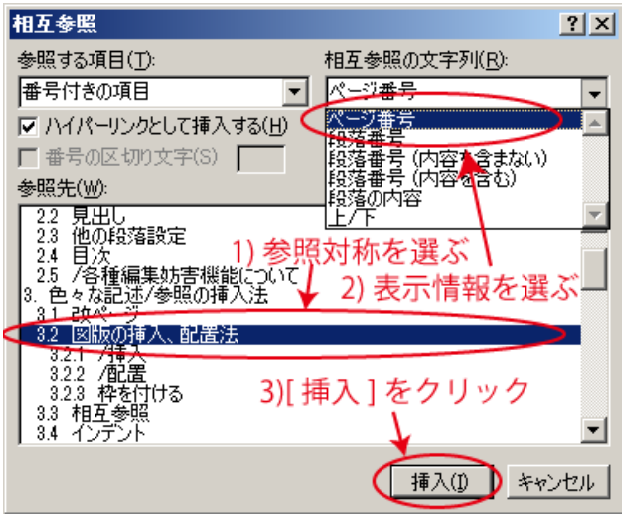
(1) 参照対称を選び

(2) 表示したい情報を選び、

(3) [挿入]をクリックします。

ページ番号、段落番号、段落の内容を表示したい場合は、(2),(3)の手順を 3 回繰り返します。

なお、上記の例では"("や"ページ"は直接タイプしています。

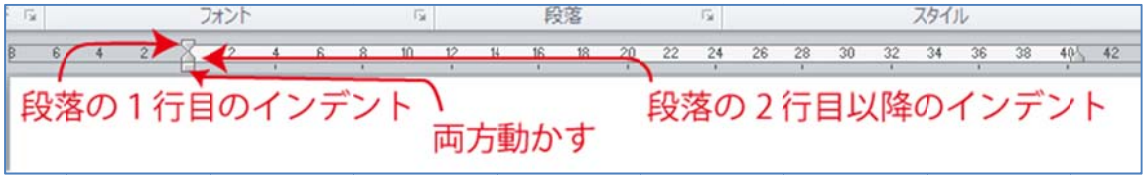


3.4　脚注

脚注を入れたい場所にカーソルを置き、「参考資料」-「脚注の挿入」をクリックします。

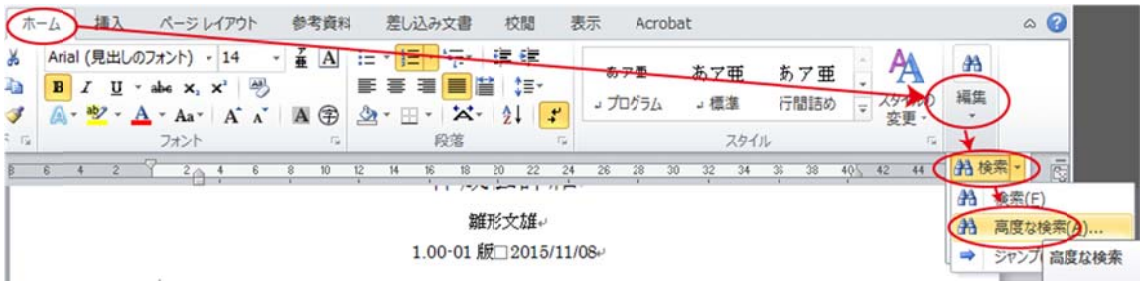
3.5　インデント

インデントはルーラーにあるタブの位置を変えることにより変更できます。

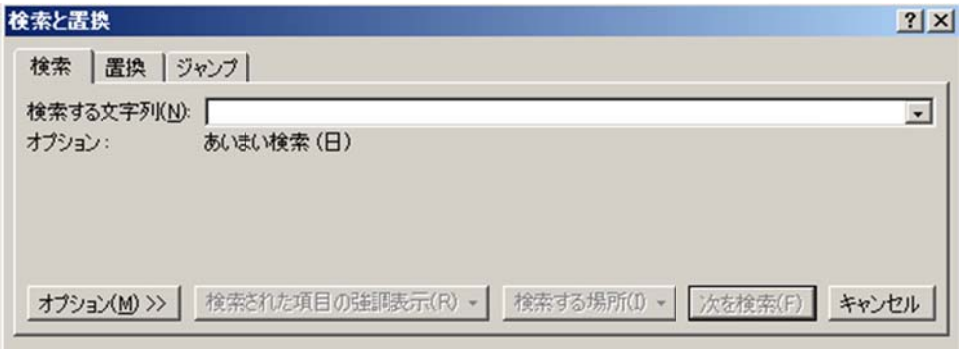


3.6　検索・置換

検索・置換は「ホーム」－双眼鏡アイコン（何故か表記は"編集")－「検索」－「高度な検索（A[4]）」で行います。



「検索と置換」ダイアログがでますので、これに検索したい文字列を入れ検索、あるいは置換ができます。



「検索」には「高度な検索（A)」の他「検索（F)］がありますが、「ナビゲーション」という窓が出て本文を隠してしまいます。「ナビゲーション」では検索結果をリストにして、そのリストから選択することができます。一般に grep と呼ばれる機能に近いと考えてください。

3.7　表

「挿入」－「表」で表を挿入できます。詳細は本文書では詳述しません。

3.8　図形

「挿入」－「図形」で線やフローチャート部品などの図を挿入することができます。本書では詳述しません。なお、先頭ページの線は「挿入」-「図形」で入れました。

---

[4] 普通の感覚では「高度な検索」こそ「普通の検索」だと思えます。

タイトル：Word 文書雛形

サブタイトル：サンプル

著者/編者：雛形文雄

版：1.03-01

発行日：2015/11/19

更新履歴：

1.00-00 版　(2015/11/05)：初版（著者:雛形文雄）

1.00-03 版　(2015/11/13)：表記ミス修正、図版でリボン選択強調
奥付/変更履歴け追加

1.01-01 版　(2015/11/14)：バージョン番号付きテンプレートでの提供に切り替え
ロケールに関する注意追加、表記微調整

1.02-01 版　(2015/11/15)：プログラム段落のフォントを等幅に。ログ段落追加。目次のレベルを 9 まで拡大

1.02-02 版　(2015/11/16)：表記ミス修正

1.03-01 版　(2015/11/19)：プログラム段落で禁則処理を抑止、本文 1 ページ目のヘッダ削除。

Word 文書雛形

サンプル

1.03-01 版